

## 第3学年 国語科の実践

1. 単元名 登場人物について、話し合おう「モチモチの木」 (全11時間 本時10時間目)

### 2. 単元目標

- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像することができる。
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

### 3. 「ひびきあう三の丸の子どもたち」にせまるために

#### 研究課題

「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり

中学年ブロックテーマ「追究する力、仲間と支え合う自分」

- ・自分の問題をとことん追究する姿
- ・仲間と協働して追究する姿

#### <聴く・話すについての指導>

「聴く」については、教師の発問や友だちの考えに対して目と耳と心で聴く、話す人を見て最後まで聴く、というルールに加え、聴いたことに対する様々な反応を認め、自分の考えと比べて感じたことを素直に表現できるような雰囲気大切にしてきた。友だちの考えに対する相づちやよいつぶやきを取り上げ、褒めていくことで、反応できる子どもが増えてきた。まだ反応が薄い場面もあるが、その時には教師から「どう思う？」と全体に改めて問いかけるようにしている。

「話す」については、考える時間を十分確保し、まずは自分なりの考えをもつことの大切さを伝えてきた。そして、話題に沿って自分の出番を考え、発言や質問をすることができるように、取り組んできた。また話し手として、どの言葉を使えばよいのか、どのように順序立てて相手に伝えればよいのか考えながら話ができるように、指導を重ねている。

今年度はコロナ禍という状況で、対面での活動が難しい中でのスタートであった。話し合い活動では、十分に耳を傾けて聴いたり、マスクをしたまま相手に伝わるように話したりすることを意識できるようにしてきた。徐々に対面での学習が可能となり、学校生活の様々な場面で、「聴く・話す」を意識した活動を取り入れられるようになってきた。ペアトークやグループトーク、学級での話し合いなど、必要に応じて表現する場も工夫している。相手意識をもった「聴く・話す」活動にしていくなかで、聴くことのよさを味わうとともに、自分の話を聴いてもらえる心地よさを実感できるようにしてきた。

#### <これまでの関わり合い・ひびき合い>

これまで、学習に限らず様々な場面で話し合いをする機会をつくってきた。聴き手も話し手も相手意識をもった話し合いができるような声かけをし、常に自分の考えと比べながら話し合いに参加することの大切さも伝えている。少しずつではあるが、思いつきで発言するのではなく、友だちの考えや話題に沿って話し合いに臨む姿が見られるようになってきた。また、ちょっとした児童のつぶやきや、自分から発言することに消極的な児童の考えを教師が拾い上げることもし、学級全体の考えがもとになってひびき合っていけるよう、意識して取り組んでいる。

代表委員会の議題、クラスイベントや総合的な学習の時間の活動内容などについては、活発な話し合いになることが多い。自分の生活に関係する事柄や興味がある話題に対しては、進んで話し合い、相手の話を聴き自分の考えを深めることができる。意欲的に関わり合える問題を学習場面で設定することにより、話し合ったことで自分の思いを強めたり、考えを深めたりするひびき合いの姿をめざしたい。

#### 4. 単元と指導について

##### <単元について>

本単元の設定（学習指導要領 第3学年）

[思考力、判断力、表現力等] C 読むこと

- (1) エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情緒について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。
- オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
- カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

[知識および技能]

- (1) オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

本単元の教材文となる「モチモチの木」は、端的な小見出しの付いた5つの場面、はっきりとした個性をもった魅力的な登場人物、緊張感のあるクライマックス、共感しやすい主人公の変容など、登場人物の気持ちの変化や性格について場面の移り変わり結び付けて具体的に想像するという学習内容に適した教材である。3年生の物語教材のまとめとして、叙述を基に場面の展開や、登場人物の行動・気持ちを捉えるとともに、気持ちの変化や性格・情景を想像できるようにしたい。そのうえで、自分の解釈を友だちと交流し、読み深めさせたい。

「モチモチの木」の作者である斉藤隆介の作品には、自分のできることをひたすら一生懸命に行う主人公が多く登場する。「モチモチの木」にも描かれる、この見返りを求めず懸命に生きる姿は、児童の心を強く揺さぶるだろう。また、一読すれば、おおそ展開がつかめる明快な物語であるが、じっくりと読んで、登場人物の境遇や思いなど叙述を基に理解していくことにより、味わい深さが感じられる。学習を通して、児童自身が自らの読みの深まりを感じるのに適した教材である。

## <指導について>

本単元の学習に入る前の読書タイムに「半日村」を読み聞かせ、斎藤作品と子どもたちを会わせる。共通の読書体験を土台に、「斎藤隆介さんの他のお話も読んでみたいな。」「モチモチの木」は、どんなお話だろう。」と、知的好奇心をもって本作品と出会えるだろう。また、「斎藤隆介さんの作品コーナー」を設け、斎藤作品に数多く触れさせることにより、斎藤隆介が描く人物に共通して感じられる優しさやひたむきさも、子どもたちに味わわせたい。

本単元の導入では初発の感想を交流し、みんなで考えたい疑問や心に残ったこと、面白く感じたところ等をまとめ、学習問題をつくっていく。物語全体を通して、さまざまな表情を見せる豆太の人物像について疑問をもち、「豆太はどんな子なのかな？」という問いが生まれると予想する。その問いを場面ごとの豆太の様子と結びつけ、児童と読み進めていく。その中で、具体的な言葉を取り上げ、どういった言葉に着目すれば性格や気持ちがとらえられるのかということを見出しに積み重ねていきたい。

本時に子どもが解決したい問題は「豆太はどんな子なのかな？」である。各場面での豆太の様子を読み取ったところで、改めて「モチモチの木」の豆太の人物像について「みんなと考えたい。」という思いを高めるのだと考える。豆太がじさまのために一人で医者様を呼びに行けたことや、モチモチの木の灯を見られたことから、「勇気のある子」と考える児童が大半を占めるのではないかと思う。しかし、最後の場面でまた一人でトイレに行かれなくなる豆太の様子から「おくびょうな子」と考える児童や「勇気をもった（豆太は変わった）」と考える児童など、考えの違いやずれが生じ、問題を焦点化することができる。そして、それまでに読み取ったことや叙述に基づいて考えを伝え合うことによって、自分の考えと友だちの考えとの共通点や相違点に気づき、豆太の人物像を自分なりに捉える姿をひびき合いの姿とする。「豆太のじさまに対する優しさが勇気を出すもとなったこと」「豆太にも勇気が出せるようになってほしいというじさまの願い」「人間、やさしささえあれば、やらないきゃならねえことは、きっとやるもんだ。というじさまの言葉」など、学習を通して読み取ったことを振り返ることができるよう、学習の足跡を掲示したり、考えを焦点化するための問い返しをしたりする。また、友だちの考えに出会うことにより、一言で言い切ることのできない人物の多面性に気づくきっかけとなるようにしたい。

5. 単元構想 3年国語 登場人物について、話し合おう「モチモチの木」 (全11時間)

単元 目標	○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像することができる。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。 ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
----------	---

読書タイム・読書週間  
斎藤隆介作品の読み聞かせ

「半日村」 ・山をけずって湖に埋めるなんてびっくりした  
 ・一平が最後まであきらめなかったところがすごい  
 ・半日村が一日村になったことがおもしろい

学級文庫の充実をはかる。  
 斎藤隆介作品  
 「半日村」「花さき山」「三コ」  
 「ソメコとオニ」「八郎」

「モチモチの木」はどんなお話かな？①②③

・他のお話も読んでみたい

題名読み・全文通読・初発の感想をもとう①

- ・「モチモチの木」は、どんなお話かな？ ・知っているよ
- ・モチモチの木って、どんな木かな？
- ・モチモチがおいしそう ・お餅みたいなものが作れる実がなる
- ・こわい感じがするね ・この木がモチモチの木かな
- ・どのおくらの大ききかな ・家の6倍くらいあるよ
- ・お話を読んでみたい ・だれが出てくるかな

扉の挿絵を用意して、想像を広げる

初発の感想を交流しよう②

- 〈豆太について〉
- ・豆太はおくびょうだ ・昼間と夜とで、豆太の態度が違う
  - ・山の神様のお祭りを見るのをすぐあきらめて、おくびょうだ
  - ・じさまを助けるために、こわいのをがまんしてやさしい
  - ・一人で医者様を呼びにいてて**勇気がある**
  - ・臆病なのに、なんで一人で医者様を呼びに行けたのかな
  - ・じさまのことが大好きなんだと思う
  - ・なんでモチモチの木の灯を見れたのかな
  - ・勇気を出せたから、モチモチの木の灯が見れたんだと思う
  - ・豆太がおくびょうにもどっておもしろい
  - ・また、一人でトイレに行けなくなっておもしろい

文章を読んで理解したことに基づいて、感想をもつことができる。  
【思】

物語の内容を確認しよう③

- ・登場人物はだれかな
- ・豆太が主人公
- ・対人物は、じさまかな？モチモチの木かな？
- ・モチモチの木は人物じゃないよ
- ・「モチモチの木」はどんな話？
- ・豆太が勇気を出してじさまのはらいたをなおす
- ・おくびょうな豆太がじさまのために**勇気を出す**
- ・豆太がじさまを助けるけど、またおくびょうな豆太にもどる話
- ・いろんな豆太が出てくるね
- ・豆太はどんな子なのかな？
- ・第1場面は「おくびょう豆太」ってなっているね
- ・場面ごとの豆太の様子はどんなかな？

登場人物と場面の確認をする。  
 難読語の理解をおさえる。  
 挿絵や豆太の4回の「じさまあ。」の台詞を提示し、場面の状況を把握しやすいうにする。  
 中心人物と対人物をおさえる。

感想交流の中で、感想が集中しているところや、ずれのあるところを整理し、解決していきたい問題を明確にしておく。

じさまはどんな人なのかな？④

- おくびょう豆太 やい、木い
- ・ぐっすりねむっている真夜中でも目をさましてくれて、やさしい
  - ・たった二人でくらしている豆太がかわいそうで、かわいいと思っている
  - ・六十四の今、岩から岩へのとびうつりだって、見事にやっつけてける
  - ・「シー」と言って、豆太を安心させてくれている
  - ・豆太を大事に思っている

地の文に着目して「語り手」の「豆太」に対する見方を捉えることができる。【思】  
 「豆太」と「じさま」の性格や関係性について、想像しようとしている。【態】

登場人物の会話や行動、様子、語り手の言葉などに着目して読み、様子や行動、気持ちや正確を表す語彙をゆたかにすることができる。【知】

豆太

- ・5つにもなつて、一人でトイレに行けない
- ・「じさまあ。」としょんべんにじさまを起こす
- ・じさまがいると安心できる
- ・じさまを頼りにしている
- ⇒おくびょうな子・こわがりな子

豆太はどんな子なのかな？

豆太はなんでモチモチの木の灯を見れたのかな？⑦

- 豆太は見た
- ・じさまは豆太を心配させないようにしている
  - ・医者様は「灯がついたように見える」と言っている

豆太

- ・「じさまあつ。」と「じさまつ。」が違う
- ・豆太は夢中で医者様を呼びに行った
- ・医者様を呼びに行ける**勇気があったから**
- ・いたくて、寒くて、こわかった ・あきらめていたのがうそみたい
- ・じさまを助けたい**優しさがある** ・じさまを死なせたくないから**勇気が出た**
- ・じさまを助けたい**気持ちが、こわい気持ちに勝った**
- ・勇気が出たから、モチモチの木の灯が見れた
- ⇒勇気のある子・優しい子・やるときはやる子

「豆太」の優しさと勇気が行動に表れていることを読んでいく。

なんで、昼と夜と豆太はちがうのかな？⑤

- 豆太
- <昼>
- ・木の下に立って、いばっている
  - ・明るいし、じさまがそばにいる
- <夜>
- ・モチモチの木がお化けみたいに見える
  - ・木がおこっているみたい
  - ・モチモチの木につかまりそう
  - ⇒昼はいばっている子・元気な子
  - 夜はおくびょうな子・こわがりな子

どうして豆太はまたしょんべんにじさまを起こすのかな？⑧

- 弱虫でも、やさしけりや
- ・じさまは、かわらず優しいまま
  - ・じさまが「勇気のある子どもだった」とほめた

豆太

- ・「じさまあ。」としょんべんにじさまを起こす
- ・最初の豆太に戻っちゃった
- ・じさまが元気になったから、また甘えたい
- ・しょんべんに一人で行くことは**勇気とはちがう**
- ⇒おくびょうな子・こわがりな子・甘えんぼうな子

地の文に着目して「語り手」の「豆太」に対する見方も捉えられるようにする。

モチモチの木ってどんな木かな？⑥

- 霜月二十日の晩
- ・霜月二十日の晩にモチモチの木に灯がともる
  - ・「山の神様のお祭り」だとじさまが教えた
  - ・ゆめみたいにきれい
  - ・勇気のある子どもにしか見ることができない
  - ・じさまもおとも見えた
  - ・豆太にも見てもらいたくないかな

登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結びつけて押さえることができる【思】

豆太

- ・豆太も見たい気持ちがある
- ・はじめっからあきらめて、自分がおくびょうだと思っている
- ⇒おくびょうな子・あきらめのはやい子

豆太はどんな子なのかな？⑨⑩ (本時)

勇気のある子

- ・大事なときにはちゃんと勇気を出せる子
- ・山の神様のお祭りを見る、勇気のある子
- ・いざというときに勇気を出せる子

やさしい子

- ・じさまのために、一人で医者様を呼びに行ける優しい子
- ・おくびょうな子
- ・勇気が出せたけど
- ・いつもはおくびょうな子

行動や様子を表す表現に基づいて考えをもち、友だちと伝え合うことによって、豆太の気持ちの変化や性格を自分なりに捉えることができる。【思】

学習感想

- ・おくびょうでも大事なときに勇気を出せる豆太は、勇気のある子だと思う
- ・どっちもおくびょうだけど、心が変わったと思う

学習感想を交流しよう⑪

一人一人の感じ方の違いに着目し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。【態】



#### <成果>

- ・子ども達が場面ごとの豆太について、しっかりと読み取り捉えることができていた。子どものことばでつないだ単元構想をもとに、1時間ずつ丁寧に取り組んだことや、毎時間の板書を学習の足跡として教室に掲示し、いつでも立ち戻ることができるようにしたことがよかった。
- ・子ども達同士、自分から話し合いをつくり、学習していこうという姿が見られた。指名されて発言の順番がまわってくるのではなく、話の流れや友だちの様子をうかがいながら、自分の話す出番を考えることができていた。

#### <課題>

- ・子ども同士が友だちの考えとの違いやずれをもとに話し合うことができると、よりよいひびき合いの姿へと近づいた。話し合いを深めるため、教師が子どもの反応に立ち止まったり、発言した内容を問い返したりすることも適切に行っていくとよい。また、ネームプレートを自分で貼って立場を明らかにしたり、貼り直して立場を変えたりするときに、理由をしっかりと伝えることによって、立場の違いやずれに気付くことにもつながる。
- ・本時の学習問題が、場面ごとに読み取っていくときの学習問題と文言が同一だったこともあり、子ども達の捉えが曖昧になってしまった。「結局」「最終的に」など、豆太の全体像を考えられるような言葉を加えたり、豆太の変容に焦点を当てたりするとよい。